

1. 授業の概要(ねらい)

この授業には二つの主題がある。一つは「生と性」であり、次に「家族とケア(世話)」である。人間は生まれてから死ぬまで性的な存在として人間関係を築き、次世代を生み育てていく。生きることと性(セクシュアリティ)について自分と他者、そして社会との関係について問いを立て、考えていく。さらに「性教育」について関心を深め、国連の提唱する「包括的性教育」の指針を手がかりとするなど国際的な視点から検討していく。また、人間は乳幼児期から自立するまで、親をはじめとする周囲の大人の世話を受けて育ち、成年期には子どもや高齢者をケアする側となり、高齢になると再びケアを受ける側となる。この「ケア＝世話」による「いのちのつながり」は主に家族を通して実現される。家族にとってのケア(世話)とは何か。その理論と実際について多角的に検討していく。

2. 授業の到達目標

授業の主題に関連するさまざまなトピックを知り、理解を深めるとともに、「性教育」や「いのちの教育」の理論と実践について学び、討論することができる。教育や保育の場などにおける支援の実践に役立てることができる。

3. 成績評価の方法および基準

コメント・ペーパーの提出やディスカッション等による授業への参加態度(40%)。課題レポート(60%)など。

4. 教科書・参考文献

参考文献

草野いづみ(編著) 『みんなで考える家族・家庭支援論』 同文書院

草野いづみ(共著) 『大学1年生からの社会を見る眼のつくり方』第4章「ジェンダーから読む社会」 大月書店

5. 準備学修の内容

授業のテーマに関連する文献や新聞、放送などのメディアによる情報にアンテナを張り、収集する。

6. その他履修上の注意事項

受け身でなく積極的に参加する。必要な情報を主体的に収集し、柔軟に思考し、他者との共有(コメントやディスカッション等)を通じて学びを深めていく。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション:授業の進め方や参考文献等の説明。
- 【第2回】 家族とは:意識と実際。受講生のアンケート調査からみた現代の家族観。歴史的にみた家族の変遷。個人・家族・国家の関係。家族の多様性・多文化性。
- 【第3回】 セクシュアリティとジェンダーの発達:性自認とジェンダー意識。男女平等と性別役割分業観。
- 【第4回】 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖の健康・権利)①
多様なセクシュアリティ:性的マイノリティ、LGBTとセクシュアル・ライツ。当事者のお話。
- 【第5回】 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ②
産む・産まない・産めない:人工妊娠中絶を考える。歴史、法律、宗教、生命倫理、医療、女性の人権…等の視点から。避妊(家族計画)と中絶。
- 【第6回】 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ③
人口政策と優生思想:国家による「数」と「質」の管理vs個人・カップル・家族にとっての家族計画。少子化対策と人口政策。
- 【第7回】 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ④
性感染症・HIVエイズ:性的リスクと自己管理。意識と実際。
- 【第8回】 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ⑤
生殖医療とカップル:「子どもがほしい」、生殖補助医療とはなにか。先端生殖技術と生命倫理。
- 【第9回】 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ⑥
自己決定権と社会:生、性、死における自己決定と他者。
- 【第10回】 性教育とはなにか①世界の動向。包括的性教育に関するガイドライン。
- 【第11回】 性教育とはなにか②小中高の授業実践から。
- 【第12回】 性教育とはなにか③性的リスク対処について。
- 【第13回】 いのちをつなぐ「世話(ケア)」①
乳幼児と家族・養育者。
- 【第14回】 いのちをつなぐ「世話(ケア)」②
高齢者と家族。看取りと尊厳。
- 【第15回】 まとめと課題。